

スペインにおけるカンキツ類の 生産・流通事情調査報告書

中央果実基金・海外果樹農業情報 No.90

1 はじめに

スペインはカンキツ類の欧州最大の産地であるとともに、世界的にもブラジル、米国、中国に次ぐ生産地域である。我が国のスペインからのカンキツ類の輸入は、2002年までは生鮮果実の輸入もあったが近年は米国产との競合により調製品のみとなっている。しかし、スペインは我が国と同じ北半球に位置し、また輸出拡大に意欲的であることから、今後の動向に注目する必要がある。こうしたことから、スペインのマドリッド工科大学 (Univer-

sidad Politecnica de Madrid) 教授 Fernando Gil-Albert Velarde博士に委託してスペインにおけるカンキツ類全体の状況を把握するため調査を実施した。

本稿ではスペインのカンキツ類のうち生産量の多いオレンジ、マンダリンおよびレモンについての生産と輸出状況を中心に概要を紹介する。

2 種類別生産状況

(1) オレンジ (*Citrus sinensis* (L.) Osb.)

2000年の州別オレンジ栽培面積および生産量は表1および表2のとおりである。

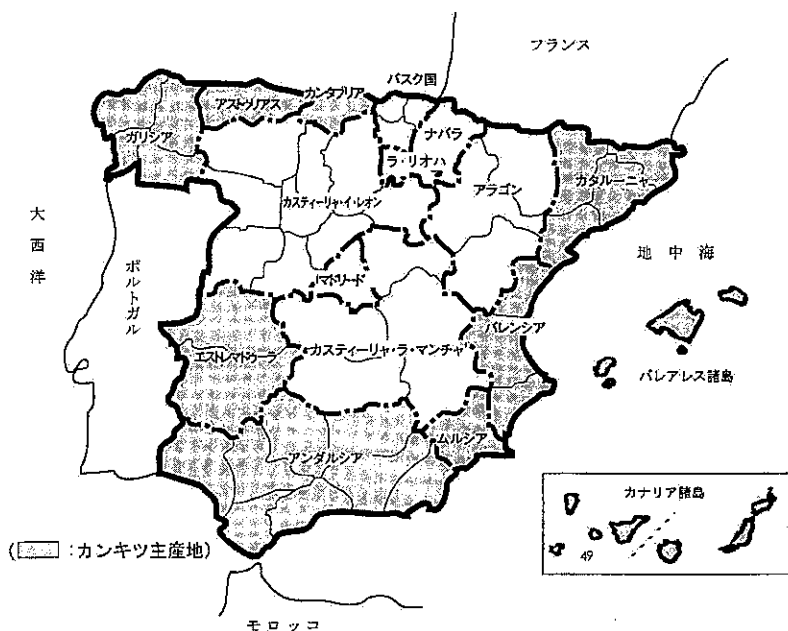


図 スペインの行政区

表1 オレンジの栽培面積・生産量(2000年)

地域、州名	栽培面積	結果樹面積	(単位: ha, トン/ha, トン)	
			単収	生産量
カタルーニャ 地域				
カタルーニャ州	3,718	3,222	17.3	56,139
東部 地域				
バレアレス諸島州	2,658	2,653	7.1	20,123
バレンシア州	81,059	73,688	22.8	1,679,474
ムルシア 地域				
ムルシア州	9,188	8,594	16.8	144,305
エストレマドゥーラ 地域				
エストレマドゥーラ州	12	12	9.2	180
アンダルシア 地域				
アンダルシア州	37,012	31,816	21.9	697,763
カナリア諸島 地域				
カナリア諸島州	877	877	15.5	16,553
スペイン 計	134,533	120,870	21.6	2,616,198

表2 オレンジ種類別栽培面積・生産量の推移(スペイン全体)

種 類	2000年		2000/1985	
	面積	生産量	面積	生産量
ネーブル類				
早生ネーブル亜類	53,588	1,126,488	151.9	162.7
中生ネーブル亜類	18,332	321,013	34.9	44.4
晩生ネーブル亜類	22,607	324,879	464.8	648.4
白色種類				
選抜白色種亜類				
Salustiana種	9,822	213,471	120.5	158.9
その他選抜				
白色種	1,571	34,810	40.9	75.7
一般白色種亜類	2,182	40,552	52.8	88.0
SANGUINAS類	418	6,422	8.6	19.3
晩生種類				
バレンシア種	1,500	27,679	26.7	42.9
ベルナ種	24,513	520,884	198.6	334.1
オレンジ 計	134,533	2,616,198	102.2	134.5

ブル類全体が1985年からの増加率は他の種類に比べて低いものの、オレンジ全体生産量の7割近くを占めている。

(2) マンダリン (*Citrus reticulata* Blanco)

2000年の州別マンダリン栽培面積および生産量は表3および表4のとおりである。

全国栽培面積は110,487ha、結果樹面積は94,746haであり、1985年からともに81%増加している。一方、単収は19.0ト

全国栽培面積は134,533ha、結果樹面積は120,870haであり、1985年からそれぞれ2%および8%増加している。一方、単収は21.6トン/ha、生産量は2,616.198トンであり、1985年からそれぞれ26%および35%増加している。種類別では、ネー

ン/ha、生産量は1,801.926トンであり、1985年から単収は7%の減にであるが栽培面積の増加を反映して生産量は71%増加している。種類別では、クレメンティン類がマンダリン全体生産量の約8割を占め、1985年からの増加率も最も大きい。

表3 マンダリンの栽培面積・生産量 (2000年)

(単位: ha, トン/ha, トン)

地域, 州名	栽培面積	結果樹面積	単収	生産量
カタルーニャ 地域				
カタルーニャ州	4,889	4,054	18.4	74,782
東部 地域				
バレアレス諸島州	274	274	6.9	2,002
バレンシア州	93,593	81,954	19.2	1,573,116
ムルシア 地域				
ムルシア州	1,989	1,693	27.1	45,800
エストレマドゥーラ 地域				
エストレマドゥーラ州	5	5	11.0	67
アンダルシア 地域				
アンダルシア州	9,682	6,713	15.7	105,419
カナリア諸島 地域				
カナリア諸島州	55	53	8.3	654
スペイン 計	110,487	94,746	19.0	1,801,926

表4 マンダリン種類別栽培面積および生産量の推移 (スペイン全体)

(単位: ha, トン, %)

種 類	2000年		2000/1985	
	面積	生産量	面積	生産量
ウンシュウミカン類	11,810	300,626	66.3	71.0
クレメンティン類	92,634	1,430,160	228.9	247.1
その他マンダリン	6,043	71,140	218.2	147.3
マンダリン類 計	110,487	1,801,926	181.0	171.5

次いでウンシュウミカン類の生産量が多いが1985年からは約3割減少している。

(3) レモン (*Citrus limon* (L.) Burm)

2000年の州別レモン栽培面

表5 レモンの栽培面積・生産量 (2000年)

(単位: ha, トン/ha, トン)

地域, 州名	栽培面積	結果樹面積	単収	生産量
カンタブリア 地域				
ガリシア州	64	61	18.8	4,440
カンタブリア州	21	21	7.0	187
カタルーニャ 地域				
カタルーニャ州	70	67	14.4	1,152
東部 地域				
バレアレス諸島州	284	284	6.2	1,998
バレンシア州	14,293	14,094	24.3	342,390
ムルシア 地域				
ムルシア州	23,302	22,179	18.4	408,508
アンダルシア 地域				
アンダルシア州	7,636	7,092	21.6	152,908
カナリア諸島 地域				
カナリア諸島州	161	161	12.6	3,080
スペイン 計	45,833	43,961	20.7	915,009

表6 レモン種類別栽培面積および生産量の推移
(スペイン全体)

(単位: ha, トン, %)

種 類	2000年		2000/1985	
	面積	生産量	面積	生産量
VERNA 類	23,183	394,366	64.2	127.3
FINO 類	22,037	510,457	125.7	338.3
その他レモン	613	10,186	39.7	48.6
レモン 計	45,833	915,009	83.0	160.0

積および生産量は表5および表6のとおりである。

全国栽培面積は45,833ha, 結果樹面積は43,961haであり, 1985年からそれぞれ2%減および11%増加している。一方, 単収は20.7トン/ha, 生産量は915,009トンであり, 1985年からそれぞれ109%および90%と大きく増加している。種類別では, FINO類が1985年から大きく増加しレモン全体生産量の5割以上を占めるようになっている。

3 種類別農場平均栽培面積

(1) オレンジ

1999年におけるオレンジ栽培農場の全国平均オレンジ栽培面積は1.17haであり, 1989年の0.92haから27%増加している。これはオレンジ栽培農場数の大幅な減少とその農場当たり栽培面積の増大傾向によるものである。

農場当たり平均栽培面積が最大の地域はアンダルシア州の2.11haであり1989年から52%増加している。第2位はムルシア州の1.39ha(1989年から42%増加)で, 以下, カタルーニャ州の1.37ha(17%増加), バレンシア州の1.09ha(25%増加)

が続いている。

他の生産地域の農場当たり平均栽培面積は1ha以下で, 概して減少傾向にある。

(2) マンダリン

1999年におけるマンダリン栽培農場の全国平均マンダリン栽培面積は1.31haであり, 1989年の0.83haから58%増加している。これは小規模な農場の数はそれほどの変化はないものの以前より規模を拡大した農場の数が増加したことによる。

平均栽培面積の最大はアンダルシア州の2.53haで1989年の169%増と大きく増加している。なお, アンダルシア州では栽培農場数, 栽培面積ともに増加している。次いで, カタルーニャ州の2.22haで1989年から85%増加しており, これは地域内の大規模農場の増大による。以下, 過去10年間で3倍(207%増)になったムルシア州の1.58ha, 農場数, 栽培面積共に増加して1989年の52%増のバレンシア州の1.27haが続いている。

他の生産地域はエストレマドゥーラ州とカナリア諸島州を除き平均面積は1ha以下でその栽培面積は概して減少傾向にある。

(3) レモン

1999年におけるレモン栽培農場の全国平均レモン栽培面積は1.10haであり, 1989年の0.97haから13%増加している。

これは栽培面積の減少(14%)に比べ農場数の減少(24%)がより大きいことによる。

平均栽培面積の最大はバレンシア州の1.48haで1989年の21%増であり、これは農場数の減少と栽培面積の増加によるものである。次いで、アンダルシア州の1.17haで1989年から9%の増加で農場数の減少と栽培面積の増加による。第3位はムルシア州の1.31haで栽培面積が増加した一方で農場数の減少により33%増加している。

他の生産地域は平均面積は1ha以下でその栽培面積は概して減少傾向にある。

4 用途別仕向け量の変化

スペイン産カンキツ果実の用途別仕向

け量の変化は表7に示すとおりである。

スペインにおけるカンキツ生産量の主要部分は生食用として消費される。これは栽培する品種の特性と収穫する果実が高品質であることおよび農園規模のもたらす結果である。

1985～2002年の間にスペイン産カンキツの主要部分、すなわちオレンジ生産量の42～51%、マンダリン生産量の46～73%、レモン生産量の47～65%、グレープフルーツ生産量の31～88%が輸出に振り向けられた。この期間中の輸出果実量は連続的な増加を示している。この増加は特にマンダリン(1985年の輸出量は726.6千トン、2002年は1,185千トン)と、グレープフルーツ(1985年は8.1千トン、

表7 スペイン産カンキツの用途別仕向け量

(単位:千トン)

	国内生産量		輸 出 量		国内生食量		加工仕向け量		そ の 他	
		%		%		%		%		%
カンキツ計										
1985/86	3,510.6	100.0	2,035.9	58.0	1,143.6	32.6	331.1	9.4	0.0	0.0
2000/01	5,400.7	100.0	2,858.7	52.9	1,355.0	25.1	704.1	13.0	482.9	8.9
2001/02	5,750.6	100.0	3,142.0	54.6	1,297.8	22.6	958.4	16.7	352.4	6.1
オレンジ										
1985/86	1,965.5	100.0	1,001.2	50.9	783.2	39.8	181.1	9.2	0.0	0.0
2000/01	2,708.8	100.0	1,186.5	43.8	887.3	32.8	356.5	13.2	278.5	10.3
2001/02	2,923.7	100.0	1,448.8	49.6	924.4	31.6	484.8	16.6	65.7	2.2
マンダリン										
1985/86	1,050.4	100.0	726.6	69.2	217.8	20.7	106.0	10.1	0.0	0.0
2000/01	1,819.0	100.0	1,143.1	62.8	336.5	18.5	177.0	9.7	162.4	8.9
2001/02	1,778.1	100.0	1,185.0	66.6	232.0	13.0	252.6	14.2	108.5	6.1
レモン										
1985/86	482.0	100.0	300.0	62.2	139.0	28.8	43.0	8.9	0.0	0.0
2000/01	845.9	100.0	505.3	59.7	130.0	15.4	168.6	19.9	42.0	5.0
2001/02	1,017.8	100.0	481.6	47.3	140.0	13.8	218.0	21.4	178.2	17.5
グレープフルーツ										
1985/86	12.7	100.0	8.1	63.8	3.6	28.3	1.0	7.9	0.0	0.0
2000/01	27.0	100.0	23.8	88.1	1.2	4.4	2.0	7.4	0.0	0.0
2001/02	31.0	100.0	26.6	85.8	1.4	4.5	3.0	9.7	0.0	0.0

2002年は26.6千トン)が顕著であった。

同じ時期にスペイン国内で生食用に消費された割合は、オレンジが23～45%、マンダリンが13～21%、レモンが9～29%、グレープフルーツは4～58%の間で変化していた。グレープフルーツの生食用消費量は1994/95年に最大の15.4千トン(消費割合42.3%)に達した以降大きく低下している。

農漁業食料省のデータによると、スペインにおけるカンキツ果実の一人当たり年間消費量はオレンジが22.3kg、マンダリンが5.3kg、レモンが3.6kgである。これらの数量は比較的少ないので今後大きく増加する可能性がある。

5 輸出状況

(1) 生鮮カンキツ類

1) 全体

スペインのカンキツ類輸出状況は表8のとおりである。

スペインは生鮮カンキツ類の主要輸出国である。1985年の生鮮カンキツ類輸出量は156万トンであったが、2002年にはこれを125%も上回る352万トンに達している。主要輸出品目はオレンジとマンダ

リンで、2002年の輸出量はそれぞれ158万トン、135万トンであった。以下、レモン(56万トン)、グレープフルーツ(3万トン)と続き、ライムの輸出量は極めて僅かである。

2) オレンジ

生鮮オレンジ輸出量は1985年の602,254トンから1986年には一挙に倍以上の1,297,656トンへと激増しているが、これはこの年にスペインがEECに加盟し、EEC域内向け輸出が増大した結果である。その後、1989年の1,027,917トンを底に2002年の1,583,860トンをピークに概ね120～140万トンの幅の中で変動している。生鮮オレンジの輸出は引き続き増加傾向を辿っているといえよう。

EUはスペイン産オレンジの最重要輸出市場で、1995年以降総輸出量の82%から89%を占めている。2002年の輸出先国別数量を見ると、ドイツ442,362トン(27.9%)、フランス355,821トン(22.5%)、オランダ176,871トン(11.2%)、英国(117,350トン)、以下ベルギー、イタリアと続き、上位3カ国で過半を占めている。

1995年以降欧州以外の国々によるスベ

表8 スペインにおけるカンキツ類輸出状況

(単位:トン)

	1985	1990	1995	2000	2001	2002
オレンジ	602,254	1,188,318	1,383,908	1,416,885	1,331,671	1,583,860
マンダリン	727,760	889,022	1,129,993	1,372,359	1,208,714	1,347,178
レモン	224,442	435,762	335,977	512,213	518,027	557,167
グレープフルーツ	6,167	9,081	23,059	26,438	25,253	29,788
ライム			513	237	863	
合計	1,560,623	2,522,183	2,872,937	3,327,895	3,083,665	3,517,993

イン産生鮮オレンジの輸入が増大しており、中でも、カナダ、日本、豪州、モータニアが注目される。ただし、これらの国のうち最大のカナダ向け輸出量が4.6千トン(2002年)、次いで多い日本向けが1.3千トン(同)とEUを含む欧州諸国向けに比べてはるかに少ない。また、1997年以降、香港、マレーシア、シンガポールといったアジア諸国の市場がスペイン産オレンジに対して開放された。米国向け輸出は1999年の17,909トンをピークにその後大きく減少している。なお、アルゼンチンは2001年の経済危機までスペイン産生鮮オレンジの大輸入国であった(2000年の輸入量6,452トン)。

3) マンダリン

マンダリンの輸出も1985年の727,760トンから1994年の1,233,578トンへと増加傾向を辿っていたが、1995年以降足踏み状態が続き、1,085,363トン(1996年)から1,372,359トン(2000年)の間で変動している。

スペイン産マンダリンの主要輸出先も生鮮オレンジと同様EU諸国で、1985～1996年には総輸出量の85～90%を占めていた。1997年以降EU諸国向け輸出量は若干減少し、総輸出量の77～80%で推移している。主要輸出先はドイツ(2002年・359,526トン)、フランス(同295,949トン)、英国(同125,282トン)である。

生鮮オレンジのところで見たように、マンダリン輸出についてもEU加盟を控えた中東欧諸国市場が次第に重要度を高

めており、それと同時にウクライナ等旧ソ連のもとにあった共和国もまた重要市場として注目される。

スペイン産マンダリンの欧州以外の主要輸入国は米国(2002年44,746トン)とカナダ(同14,208トン)である。2002年にはアラブ首長国連邦(同246トン)、豪州(同162トン)、中国、南アフリカ、香港、バーレーン等に対する輸出が始まった(日本向け輸出の数字はない)。

4) レモン

スペインのレモン輸出は1985年の224,442トンから2002年の557,167トンの幅の中で変動している。1985年から2002年の間EU諸国向け輸出が全体の64～81%を占めていた。しかし、1987年と1989年には例外的にEU向け輸出割合はそれぞれ46%、45%と大きく低下している。EU諸国のうちではドイツ(2002年112,932トン)とフランス(同93,552トン)がスペイン産レモンの主要市場である。

ドイツとフランス以外の欧州諸国も次第に重要市場となってきており、1985年にはスペインのレモン総輸出量中6%を占めるに過ぎなかったが、2002年には30%にまで増大している。1985～1990年におけるEU諸国以外の輸出先国はスイス、東ドイツ、ソ連、ポーランドであった。1991年以降スエーデン、フィンランド、ノルウェーのスカンディナヴィア3国、東欧諸国、旧ソ連のもとにあった共和国が輸出先として登場してきた(2002年の日本向け輸出量は0.2千トン)。

表9 スペインにおけるカンキツ加工品の輸出状況

(単位：トン)

	オレンジジュース		レモン ジュース	グレープフルーツ ジュース		グレープ フルーツ 缶詰	マンダリン 缶詰	カンキツ ジャム等*
	ナチュラル	濃縮		ナチュラル	濃縮			
1985	12,721	567	1,282	395		0	90,057	125
1990	18,906	173	1,201	546	64			
1995	78,756	20,808	2,884	303	1,038	17	116,849	665
2000	124,727	51,573	2,169	2,249	391	26	82,075	803
2001	115,415	58,476	2,302	5,640	346	214	56,079	988
2002	162,293	61,697	2,991	4,346	2,779	34	47,232	1,490
資料出所	FAO					スペイン財務省国税局関税部		

注：* ジャム、ゼリー、マーメレード

(2) カンキツ類加工品

スペインのカンキツ加工品の輸出状況は表9のとおりである。

カンキツ加工品の総輸出量は1985年の105,147トンから2002年の282,862トンへと大きく増加した。品目別に見るとオレンジジュース（1985年13,288トン。2002年223,990トン）が最大で、ほぼ全量がナチュラルジュースである。グレープフルーツジュース(ナチュラル)の輸出も増加している。マンダリン缶詰の輸出は大きく減少し、レモンジュースの輸出は比較的安定的に推移している。

カンキツ加工品の輸出先はもっぱらEU諸国で、僅かな量がアフリカ、アジア、アメリカ地域向けに輸出されている。しかし、米国向けマンダリン缶詰輸出は量的にはかなりなものである。

なお、日本向け輸出量（2002年）は非冷凍オレンジジュース946トン、マンダリン缶詰163トン、レモンジュース92トン、グレープフルーツジュース527トンとなっている。

6 スペインカンキツ産業の中期展望

- ・欧州内の主なカンキツ供給者（イタリア及びスペイン）の市場シェアは、維持、またはやや減少（量の減少ではない）が見込まれる。これは、夏季の南半球（南アフリカ、アルゼンチン、ブラジル及びウルグアイ）からの輸入増大のためである。スペインのカンキツ輸出の展望は、生鮮果実、加工品を含めその品質維持と消費の促進次第である。
- ・ユーロ地中海経済圏が形成されることにより、EUと他の非加盟地中海沿岸諸国との間の貿易が再開されるだろう。通商条約の締結によって、貿易障害が簡素化され、低減される。EUは2003年、青果物の中でも生鮮・加工果実に影響力のあるイスラエル及びモロッコと通商・農業条約を締結した。スペインにおいてはイスラエルとモロッコとの競争を回避するため、極早生と極晩生品種の探索がなされている。

- EU内では、価格支持策、生産物の隔離、あるいは輸出支援がなされなくなってきた。このため、生産者組織の重要性が増大しており、また、産業部門の競争力を強化するための運営資金の創設が進められている。
- スペイン産カンキツの輸出の95%以上は道路経由でなされている。これは、鉄道は依然として遅く、生鮮食品の輸送には大型トラックが最も良い手段であるからである。しかし、ドイツやフランス等幾つかの国では道路通行税を課しており、スペイン産カンキツは欧州内の多くの国に届けるためにフランスを通過する必要があることから、この道路通行税は欧州市場におけるスペインの競争力を殺いでいる。
- スペインからEUへの輸出を減少させてきた状況は、1995年に発効したGATTウルグアイラウンド条約による関税削減により取り除かれてきている。
- 低コスト生産のモロッコのような国からの産物と競争するにはスペインから輸出される果実の品質保持は重要である。また、スペインの輸出部門は、カンキツ農場での労力として子供の雇用を認めず、総合的生産方式による環境に配慮した生産システムを採用するといった公正取引条件を守ることで自己防衛している。
- 中央及び東部欧州諸国（PECOS）の市場としての重要性は増大しており、それはこれらの国の経済発展によって一段と確かなものになる。2001年のデータによるとEUの一人年間生鮮カンキツ消費量は20kgであるのに対し、PECOSでは僅か7kg、また、加工品ではEUの一人年間消費量が30kgであるのに対し、PECOSでは1kgである。PECOSがEUからの生鮮物の輸入関税と消費税を引き下げるならば、現在は非常に低いそれらの消費が増大することが見込まれる。